

令和3年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	事業構想学群
学 群 長 名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	コロナ禍以前の対面授業の運用とは異なり、ウェブサービスや遠隔会議システムを活用して資料の配布などがデジタル化され、対面でありながらも情報化技術を活用する教育体系の確立が急務となった。
	理 由	感染症者の減少傾向に伴い、対面授業での実施が原則となり、前年度に課題となっていた授業の理解度、達成度の充足に向けた遠隔授業実施による問題の解決に向けた多様な取り組みが求められた。
②	課 題	すでに活用されていた遠隔授業のシステムを併用し、対面での授業でも教材の提供や反復学習のための動画活用など、対面重視の中でも教授法の開発、発展についてさまざまな取り組みが必要となった。
	理 由	学生を教室に集めて講義する方法においても、授業そのもののコンテンツ化（動画の記録と配信）も可能となり、感染症の危険が残された中での在宅での受講や、個人の理解不足をオンデマンドで補うなどの機会が増えることとなった。
③	課 題	演習・実習などで困難を感じた遠隔授業が対面授業に転換できるようになり、受講生の不満や不安を解消するための方法の検討が今期の重要な課題となっていた。
	理 由	遠隔会議システムを使った演習・実習はこれまで相互の意思疎通や課題内容の伝達に難があったが、対面再開を機に従来の授業運営をさらに高度化する授業手法の獲得が求められるようになった。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	従来であれば、教員の PC から教室のプロジェクターにて画面を投影し、印刷物の資料を配布するような形での講義が通常であったが、専門の講義系授業においては、講義室での多数の受講生に向けての講義を行うとともに、手元資料をデータ化して遠隔会議システムで共有したり、これまで運用していた Web サービスを介したレポート課題の提出、アンケートフォームの配信などを駆使したりと、受講内容をもれなく受講生が把握することができるような工夫が多く見られた。
	感染症に対する学生の警戒心が完全に拭えない状況の中で、対面授業の実施を前提にしつつも、登校や大学での受講が困難な学生たちにも学びの機会を適切と提供するため、講義の内容を録画したものを保存、配信するなどのオルタナティブな学びの状況も構築することで、結果的に反復学習の機会を提供することにも繋がった。本年度後半においては感染力の強いオミクロン株による陽性者の急激な増加の中、自宅待機を強いられるような状況が拡大し、通学による受講機会を逃す可能性が高まったとしても、これに対処する手法を備えておくことも可能であると考えられる。
③	対面での議論等による学習効果の向上については従前より高く評価する場面もあったが、全面的な遠隔授業の期間には、それを痛感する場面も少なくなかった。対面を再開する中で、直接顔を合わせて行う意見交換や、学習対象を直接観察しつつ学びを深めていくような課題、教材を扱う授業においては、これまで実践してきた徹底的な感染予防対策を前提として、その教育効果を十分に獲得できる学習環境を整えることもできている。他方、遠隔会議システムを並行して用いることで、受講生個人の授業内容（資料や課題作品）に対するアクセシビリティを高めることも可能となった。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

生活環境デザイン演習 II（価値創造デザイン学類生活環境デザインコース 3 年演習科目）の担当教員からのコメント：「全体で行うプレゼンテーションと講評」では、対面と Teams による配信を同時に行い、全履修生が自身の手元で、他の学生の提案内容や指導内容などを視聴することができた。今後は、ICT を活用して発表や他者の指導の様子などを 閲覧する機会を増やすことで、より多くの情報を得られるような工夫を行いたい。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

学群、学類におけるそれぞれの科目の充実と高度化において、新たな技術革新のもとで講義や演習の発展を促進するとともに、従前より丁寧に内容の充実を重ねてきたフィールドワークや制作実習等の専門教育における重要性の評価を行い、他分野多領域の融合も含めた科目等の充実を進めていきたい。